



たぐら

第 16 号
島根学習センター内
島根同窓会

発行者 竹下靖彦
2021 年 1 月発行

<http://oushimaned.main.jp>
E-mail info@oushimaned.main.jp



(写真・文：森 勝男氏提供)

今年も新型コロナウイルス禍をモノともせず、道湖北岸（松江市浜佐田町）の田んぼで、越冬コハクチョウの群れがにぎわう姿が観察できました。

コハクチョウは、水を張った田んぼやその周辺で採食、羽づくろいや翼を広げての威嚇、じゃれ合いなどを行っています。訪れたときは、約 200 羽のコハクチョウやカモの姿が見られます。この田んぼは毎年、収穫が終わると水を張り、越冬のため飛来する野鳥を誘導しているのです。渡り鳥が飛来することで、糞（ふん）などによる施肥効果があり、この田んぼでは減農薬・減化学肥料のブランド米「宍道湖 湖北はくちょう米」が生産されています。

コハクチョウの繁殖地はシベリアです。6 月～7 月ころヒナが誕生し、9～10 月ころ飛べるまでに成長します。飛べるようになると家族群をつくり、日本まで約 4000 ㎞を約 2 週間で渡って来るとのことです。越冬地でもあっても家族の群れで生活します。

飛来したとき灰色の幼鳥は、越冬を終えシベリアの繁殖地へ渡る 3 月ころ、親と同じ容姿になるようです。

明けましておめでとうござります
本年もよろしくお願ひします
二〇二一年一月

役員一同

新年所感



会長 竹下靖彦

あけましておめでとうございます。

会員の皆さまには昨年度も大変お世話になり、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

振り返りますと国内のみならず、世界が新型コロナウイルスによるパンデミック状態となり、改めて指導者とは何をなすべきかが試される事態となりました。

この間の日本の政治指導者たちは、私たちから観ましても統治能力の欠如を如実に披瀝し、打つ手打つ手が真逆となり、大切な生命の維持を軽んじ経済も大きく後退させ、未曾有の事態を招きました。

特に医療関係者に対しては、早くから市中感染を蔓延させると医療崩壊を招く、と警告されていたにもかかわらず、迅速で有効な手立てがなござりとなり、医療関係者の使命感に頼ることを求めている。

放送大学も多大な影響を受け、学位記授与式の中止、入学者のつどいの中止、教室の閉鎖、面接授業の中止によって在宅学習となり、学生や卒業生の交流が途絶え、ますます孤独の学習環境となった。

ところが光明を経た出来事がありました。それは 12 月 4 日関西電力大飯原発 3, 4 号機(福井県)で想定される地震の揺れの評価を巡り、政府が「世界一厳しい」と自負する新規制基準の土台となる原子力規制委員会に対し、大阪地裁が「不確かさ」を十分考慮しなかった点について、「看過しがたい過誤がある」として、設置許可を取り消したことである。

島大関ゼミで「大飯町まちづくり提言コンテスト」で現地にて調査した折に、町財政が原発交付金に依拠し、廃炉ではなく再稼働を提案していたが町民の評価は悪く最下位。

新しい年, 新しい道具

所長 田坂郁夫



新年おめでとうございます。1 年前に同じ挨拶をさせていただいた時には中国・武漢での流行に過ぎなかったコロナが世界を駆け

巡っています。

日本では 4 月の第 1 波, 8 月の第 2 波に続き, 第 3 波が襲っています。この文を読んでもただく時期にどのような状況になっているかはわかりませんが, 有効なワクチンの開発やその接種が一日も早くできることを祈っています。

このコロナが世の中を変えるきっかけになるのではと前回書きましたが, 放送大学でも変化が始まっています。その一つは会議です。放送大学には全国 50 カ所に学習センターがありますが, その所長が年 2 回千葉の本部に集まり会議を開いています。また, 中国・四国ブロックでは年 3 回所長・事務長会議を開催していますが, 今年度はこれら全てがテレビ会議システム(放送大学では Zoom というシステムを使っています)で行われています。

また, 既に受講された方もいらっしゃると思いますが, 面接授業も一部は Zoom により行われています。これに倣って, 本センターではだんだんセミナーを Zoom 中継し, 県西部や隠岐の方にも聴講していただくことを計画しています。松江市内の方でも体調がすぐれない時などは自宅でセミナーを受講できるようになります。Zoom はそれほど難しいシステムではありません。がやはり, 未経験のものは敷居が高く, 億劫です。そこで, 島根学習センターでは 1 月後半に Zoom 利用も含めたパソコン初心者講習を開催します(Zoom は 1 月 23 日(土))。将来的には放送大学での学びの有力な手段になるであろう Zoom を, この際は是非体験してみてください。

「学ぶ・学び続けること」

島根学習センター
事務長 小仲靖子



明けましておめでとうございます。

昨年4月に就任してからは、学生さんにも会えない、行事もない、寂しく戸惑いの日々が続きましたが、6月から「だんだんセミナー」を再開し、10月からは面接授業が行われています。島根学習センターの「新たな日常」が始まり、意欲的に学ばれている皆さんの姿に、日々刺激を受けています。また、9月27日には学位記授与式を開催し、卒業生の皆さんの話を聞かせていただきました。

3月まで勤務していた県教育委員会では、今後5年間の島根県教育の基本理念や施策の方向性を示す「しまね教育魅力化ビジョン」の策定に携わってきました。教育ビジョンの主な内容は子どもたちへの教育(学校教育)ですが、「教育を通じて目指すべき地域社会の姿～誰もが安心して学び、共に挑戦できる魅力ある島根～」も示されています。そこには、次のように書かれています。

『これからの人生100年時代の地域社会の展望を踏まえた教育の役割として、学びは子どもたちだけのものではなく、教職員、保護者、地域住民も含めて、いくつになっても学び直しや学び続けることが重要です。』

放送大学の学生、同窓会の皆さんは、「学んだことを地域活動に生かす」、「地域社会に貢献するために学ぶ」など、既に多くの方が教育ビジョンの理念を実践されています。

新たな年を迎えて、皆さんの学びの環境を整えるとともに、私も学び続けていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします

2020年1学期・2019年2学期 コロナ禍での学位記授与式を開催



卒業生代表による答辞

新型コロナウイルスが世界パンデミックとなる中、放送大学島根学習センターにおいて、2020年度1学期は学士26人、修士0人、2019年度2学期は学士18人、修士3人の皆さんに、学位記、修士修了証がそれぞれ授与されました。

コロナ禍での開催のためか、それとも学位記授与に関心がない卒業生なのかは不明ですが、年々出席者が減少し今回は47人中8人(2学期3人、1学期5人)で、寂しい限りです。

同窓会は竹下会長が来賓として出席、役員、会員が列席するとともに、客員教員の先生方も出席して授与された卒業生を称えた。

田坂所長による式辞は、「コロナの蔓延は日常の生活様式を根本から変えるとともに、教育でも大きな変化があり、大学授業が教室からインターネットとなり、放送大学では面接授業が中止で本部の専任教員によるオンラインの遠隔授業、単位認定試験も自宅での受験となった。」「多様な学生が学び、当センターでは20数年かけて卒業された方、5人目となる名誉学生の称号を受けられた方がおられます。放送大学での学びを通して身につけた確かな知識と多様な学力は、これからの人生で見え



田坂所長と卒業生の皆さま

ないところで支えて行くと確信しています。」と祝福のエールを送られた。



祝辞を述べる竹下会長

来賓として竹下会長は、「学ぶとは何かについて、ただ知識を得ることなのか。自分の知識として得ても誰の役にも立たないのではないか」と自問する中でフランスのレジスタント詩人ルイ・アラゴンの言葉に共感した。

それは、「学ぶとは、心に誠実を刻むこと、教えるとは、共に希望を語ること」だと述べていたことです。

私の事例をもとに改めて学ぶことについて、認識を深めて頂きたいと思ってお祝いの言葉とします。最後に母校の更なる発展のためにも、「島根同窓会に是非とも入会され支えましょう」と述べました。

2020年1学期・2019年2学期

卒業を祝う会開催



祝辞を述べる竹下会長

学位記授与式に続き、同窓会主催、学習センター共催にて、3密を避けるため会場をSTIKビル5階の交流ホールにて、コロナ禍で式典が中止となった2019年度2学期と2020年度1学期の卒業生を招き、恒例となった食事を共にとりながら開催した。

祝う会には、卒業生4人の方が出席、同窓会役員、会員、所長、事務長、客員教員の皆さん

が出席し、それぞれからお祝いの言葉を述べられた。

石川副会長の開会挨拶から始まり、竹下会長、田坂所長による挨拶があり、各自負担の弁当を食べた後交流に移った。

卒業生から、4回目の卒業となったが、1学期の通信指導では、コロナの関係で郵送となったので実感が湧かない。単位認定試験を受験するのにローソンにてダウンロードしたが、時間をかけて無事に受験できた。

教員ですが、入学は3校目で3年次編入した。大学生活を味わいながら2足の草鞋を履いて楽しく学んでいる。

2回目の卒業となったが、3年で卒業する予定であったが、途中身体的アクシデントに見舞われ時間がかかった。3回目は生活と福祉コースに再入学したので、できる範囲で学生生活を味わいたい。

親の介護で生活と福祉コースを学び、この度2回目の卒業が出来た。卒業要件はまだまだと思っていたがカリキュラムの変更で、知らないうちに卒業要件を満たしていることが判明していた。次は心理と教育コースに入学したので、しっかり学びたい。普通大学とは違い放送大学は時代の先端を走っていたので、混乱は避けられた状態でした。

その後出席者の皆さんからご自身の体験と、学んでいる大学に思いを寄せる心情について、改めて卒業生から語られる言葉に、入学当時の思い出や初めての卒業に至る学生生活に思いを馳せて、和やかに交流を深めた。

4人の卒業の皆さんは既に同窓会員のため、入会のお誘いはすることなく終了した。



参加された卒業生

2020年度1学期に学位記授与されました皆さんに投稿をお願いしました。

学位記授与を受けて

卒業にあたって

2020年度第1学期卒業生
生活と福祉コース 石川 直樹



このたび、無事2度目の卒業となりました。島根学習センターの皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。さて、今回卒業を迎えての率直な感想としては1回目ほどの感激はありませんでした。

特に、カリキュラムが変更になったことで、予定の学期を待たずに、自動的に卒業となったことが大きかったと思います。前年度末の段階で卒業要件を満たしていたため、1学期修了まで待つことになってしまい、空白の半年を経て卒業となったからです。

それはさておき、本コースを目指したのは、高齢の父親がいたことから、介護や福祉について勉強したいという気持ちからでした。今回卒業ということで当初の目的は達成できましたが、残念ながら途中で父は亡くなり成果を実際に生かすことはできませんでした。しかしよく考えてみると、今回学んだことは自分や家族の今後に大いに役立つと思います。

ところで、今回はコロナ禍の中での卒業となり、学位授与式や祝う会などいつもとは違う雰囲気の中で行われました。大変な状況の中での卒業だったと思いました。

ただ、日々の勉強について思ったのは、世の中が、遠隔授業や在宅勤務の難しさを伝え

る中、放送大学は通常がそうであり、面接授業との組み合わせで上手くできている。そこで何かしら、世の中に伝えられることがあるのではと感じたので、考えてみたいと思います。

少し話は変わりますが、教育学入門で家族や地域と教育との関わりと課題を勉強して感じたことです。先ほどのコロナ禍での勉強環境とつながると思いますが、現在の教育を取り巻く環境は私たちが若いころ育った環境とは全く違っています。少子高齢化、核家族化、性別役割の変化、またインターネット環境の進展など変化をあげたらきりがありません。

こどもたちを含め学習をしているものすべてが、そのような環境化で学習をして行くわけです。今コロナ禍だから、遠隔授業となって残念だとか、学校が休みになって勉強が遅れるとか、そういうことだけを問題にするのではなく、こどもたちをどのような環境で教育したら良いか、先ほどの環境変化と合わせて、真剣に考えるべき良い機会だと思っています。いつも孤独と戦いながらも目的をもって勉強している放送大学の学生だから一層強く感じたのかもしれませんが。

私は環境変化を楽しみながら、これからも、知的好奇心に誘われ勉強していきたいと思います。

仏さんの鐘の音

社会と産業コース 知野見孝信



学校で貰った賞状・通信簿などは仏さんにお供えて、鐘を一つ叩くことが、子供の時から教わってきたことだった。

姉ちゃんや妹は学級委員や何とかの賞状やら、◎がいっぱい付いた通信簿だったので、一つ叩いた鐘の音が清く澄んだ音で、仏さんか

らいっぱいいっぱい褒めてもらっていた。

◎が無い通信簿、賞状もソロバンの四級一枚だけだった僕は、仏さんにあんまり見て欲しくなかったの鐘は叩かなかった。「仏さんに見てもらっただけ鐘を一つあげてクーだが」祖母に促されて仕方なくチンチンチンくくとなんぼうも叩いていたら「仏さんが喧しくて言うちゃーが」「アゲに叩かんでも仏さんには聞こえチョッチャーが」・・・遙か昔とおく過ぎ去った、懐かしい思い出である。

平成21年、42年間務めた会社を定年退職した。放送大学への席は会社時代から置いていたが、仕事と勉強の両立は出来なかった。

定年退職したその年の一年間は、四国遍路や伊勢神宮などを巡った。

そして定年退職一年後から本格的に勉強を開始して、六年間かけて平成27年に、「人間と文化」コースを卒業した。

「大卒の資格を得たい」「学士になりたい」という思いは強く、絶対に放送大学を卒業するんだという、その思いを果たし終えたら気の緩みが出たのか、次々と病に襲われ、入院退院を繰り返すこととなった。更に突発性の難聴で、右耳の聴力を失う経験までした。

令和2年9月27日「社会と産業」コースを学び終え、二度目の学位記をいただいた。

一寸寄り道をして遅く帰ったその日、いただいた二度目の学位記を仏さんにお供えして、亡き父やご先祖様にご報告させていただき、そして鐘を一つ叩いた。

秋の夜のしずかな家内の空気を振るわせ、鐘の音が響いた。

それは昔、姉ちゃんや妹たちが学級委員の賞状やら、◎のいっぱい付いた通信簿を仏さんにお供えして、一つ叩いたあの鐘の音そっくりの、清く澄んだ音がした。そして僕も仏さんから始めて少しだけ、褒めてもらったような気がした。

“名誉学生会員”を訪ねて ③



米子市 木下知義さん
島根県境から僅か400m鳥取県に入り、中海を埋め立てた新興団地に在る木下さんのご自宅を3人(竹下会長、長尾理事、知野見理事)が訪問した。

平成元年から分譲開始となったと言われる此処は、350余りの戸建てがあるという新興の閑静な住宅街、障子戸に初冬の光がやわらかに映える、明るい部屋に通された。

—ご入学されたのは何時頃でしょうか。また放送大学は何処でお知りになりましたか
木下—21世紀に入った2001年の2学期です。退職直前に商工会議所に立ち寄った時、放送大学のリーフレットが置いてあり、“アーコレダ!”とその時思いました。早速鳥取学習センターに資料請求を出したら、既に学生募集の期限は過ぎていて、半年遅れの入学となりました。

定年退職後に何をするのかで、一つは学ぶこと、2つ目はボランティアを行うこと、3つ目は矢張り健康・体力維持することが大切だと思いました。

その中で学ぶということでは、先ず科目履修生となり、続いて専科履修生、そして3年半経ってから卒業を目指そうと全科履修生になりました。大卒の資格を目指すということも魅力でしたが、一つのことをやってみたいという気持ちがありました。

最初は「社会と経済」から始めましたが、素晴らしい講師陣、充実した教材に魅了されました。放送大学で学ぶほどに、ああ自分は何も知らなかったということを感じました。

一名誉学生を達成されましたけど、特に印象に残った思い出はありますか



学長表彰と6コース目の学位記

木下—面接授業ですね。孤独な学習の中で講師先生や学生の生身に接するのは貴重な体験でした。特に講義は講師先生から目の前で永年の研究成果のエッセンスをふんだんに教えてもらう最高に贅沢な時間でした。講義内容はもちろん、資料作成の仕方、板書、話術などすべてを学ぶ良い機会でした。トータル36回ばかり受講しましたが、もっともっと面接授業は受けたかったですね。若い人について行けないという苦しみもありましたが、でも面接授業を受けたというのは良かったです。

—特に印象に残った科目はありますか

木下—面接授業では、最初に受けた島大の杵村(すぎむら)助教授のご講義「山陰での緑(植生)の現状」といったタイトルです。授業2日目の午後には楽山公園で現地学習でした。

科目授業では、杉本大一郎先生の「宇宙とその歴史」です。宇宙の距離を測る光年という単位のペラボウサに驚きました。星空を眺めるとかは日常のことですけど、学問として学ぶことで、しかも最初のことでしたからね。

—何故「宇宙とその歴史」という科目を履修されたのですか

木下—私は文系でして、科学方面は弱いので違った世界も覗いてみようと思いました。非常に難しかったけど、面白かったですね。でも面白そうだと思って科目案内を見ても、先ず

は単位を取らなければいけませんので難しいですね。

—名誉学生の制度はどう思われますか

木下—放送大学に対しては失礼な言い方かもしれませんが、私は今でも「グランドスラム学生」という呼び方が良いと思っています。名誉とは、私の中では例えば名誉市民とか言うように「功労者、功績のあった人に与えられるもの」というイメージが強くあります。皆さんからお祝いの言葉などをもらったりしますが、どんなもんかな?という気がしています。大学本部から名誉学生通知の案内をいただき、専科履修生又は科目履修生として再入学される場合の、入学料の支援については「入学料分を学習奨励金として支援する制度を検討中ですので詳細は、入学後4月以降に通知します」とありましたが、その後全く何の連絡もありませんでした。だからどんどん名誉学生は増えるし、矢張りグランドスラム学生という呼び方の方がよろしいと思っています。

—突然カリキュラム変更によって、16単位で卒業要件を満たされたというのは、何コース目でしたか

木下—5コース目で、私はカリキュラム改正があったことなどはツコ知らなくて、通知文の届いた2015年11月18日の日記にこう記しています「改正の狙いは、卒業要件の単純化と教育の体系化の二つである。再入学の場合の単位取得要件も変更とある。ここまで来て予



学長表彰と6コース目の学位記

定(計画)に支障なきことを願う」と書いていて、

戸惑いと心配の気持ちでした。

またお知らせ文書には「再入学後に新たに取得する 16 単位を含め、34 単位を満たすように自コースが開設するコース科目から単位を修得することが必要です」とこのように書いてありました。しかしこの「本学修得の自コース」の単位がどのようにカウントされているのか中身がよくわからない。いまでも「16 単位でよい」ということがわかりません。私は自コースを正味の 34 単位取得で終わりました。外国語を 6 単位から 2 単位に減らして、コース間の共用科目がかなり増えて、専門性という観点から此处が問題であり疑問です。そしていろいろと言葉で説明されてはいるものの、どうもスッキリしないというのは事実です。

もう一つは、自分なりに履修計画を立ててきたものを、半年も経たないうちに変更され、また予告も無しに既習単位を一方的に無効にするなどは少しひどいと思います。

一学習の仕方、学習スタイルというものを お聞かせください

木下一 先ず印刷教材を読みますね。1 回読んだ後に放送授業を視聴して、通信指導提出時にもう 1 度読みます。試験本番前 2 週間位前から全て読み、そして試験に臨みます。また過去問を調べて傾向を掴みますね。中には難解な科目もあり教材持ち込み可もありましたが、時にはコレは本当の問題ではないなと思うようなものもありました。出来る限り単位取得だけの勉強にはならないように心がけました。

一学習はノートを取られていますか

木下一 ノートは取りません。印刷教材の余白に書き込みます。

一勉強時間の捻出はどうしておられますか

木下一 これまでボランティアとして「米子市交通安全指導員」・「米子市警察署少年健全育成指導員」・「錦美会」(錦海町環境美化グループ)・「錦海クラブ (自治会の老人クラブの会

長)」を務めて来ました。今も「錦海グラウンドゴルフ同好会」(公民館のお世話係)をやっています。

「時間の捻出」についてですが、現在の日常の過ごし方は①午前中はグラウンドゴルフ②午後は学習や少しばかりの家庭菜園③夜はゆったりとした寛ぎの時間です。おかれた環境の中で上手くやることだと思っています。

80 歳を超しましたが、健康に気を付けながらもずっと放送大学での学びは続けたいと思っています。・・・そしてこの後はしばらく、楽しい談笑の時間となった。

一愛読書は何でしょうか

木下一 もともと小さい頃から時代物や人情ものが好きでしたので、定年前位のころから、藤沢周平や池波正太郎、山本周五郎などをよく読みました。最近では年齢が近くなりましたので、死生学、終末医療ということへの関心から、またその生きざま、生き方に共感するところがありまして、特に鎌田實(医師・作家・諏訪中央病院名誉院長。『がんばらない・あきらめない・いいかげんがいい』などの著書)などを読んでいます。この他に当時放送大学学長六代目の石弘光先生が書かれた『新・学問のススメ』『生涯学習のこれから』は、生涯学習とは何か、放送大学での実践体験、世界の生涯教育、放送大学の学長としての改革と挫折体験ということを書いておられ、中でも同窓会との関わりと支援策も作られました。この本を読んでから石学長に対する認識がガラリと変わりましたね。流石に放送大学の学長さんだな、そして出処進退がキレイな方だなと思いました。二つ目ですが、これは放送大学の中四国ブロック学習センター編著になる『放送大学に学んで』です。此处には竹下会長も「わが残りの人生に光明を得た」と書いておられ共感しました。

一島根同窓会活動のご感想はありますか

木下一 皆さんの声を聞いてみますに、島根同

窓会は規模的には小さいが全国有数の高い評価を得ていますね。それは会長の強い意志とリーダーシップ、そして役員さん個々の持ち味が機能しているからだと思います。殊に同窓会報“たたら”は毎号届くのを楽しみにしています。今後も同窓会の存在・露出度を増やすことを希望しています。同窓会に対しては、私の方からお礼を申し上げたいです。

一子供のころ将来への夢は如何でしたか

木下一小さいころから自然の中に溶け込んで生きるということに憧れていましたね。そして、父からのプレゼントはいつも本でした。その父も将来を考える頃に病死、母の苦労を目の当たりにして学業を断念して就職しました。しかし学びへの思いはずっと続いており、退職を機に放送大学に出逢えたということは本当に良かったと感謝しています。



奥様とツーショットで

取材を終えて

初冬（11月6日・明日7日は立冬）の明るい光のあふれる部屋で、出されたお茶・コーヒーをいただき、そして奥様も一緒に話されながらの、和やかな取材となりました。

穏やかな物腰、穏やかな語り口、来客？（押しかけでした）へ対する細やかな心遣いに、只只恐縮しての、長居の時間となりました。

学んでこられたこと、そして学びの成果を地域社会に還元すること、これからの抱負。そういう心に溢れる、満つるその想いを、淡々と語られる木下さんのゆかしいお人柄に引き

込まれ、写真取材の手を休めて、話題のなかに入らせていただきました。

殿様でさえうらやましいと思わせる「夫婦暮らしは殿様でも真似できぬ」と云われる俗諺そのままのような、美しく和やかに調和されたご家庭と、ご夫婦の仲むつまじさが伝わってきました。

「定年退職後の生活で目指したものの」として木下さんは、健康と体力維持のためのグラウンドゴルフの腕前はダイヤモンド賞(8ホール中3度以上のホールインワン)を達成、また奥様のソフトテニス歴は50年に
職後は全国レベルの試合にも数多く出場し、昨年はその活躍ぶりが地元紙一面で紹介されていました。

少し傾きかけてきた冬陽が、閑静



ダイヤモンド賞の盾



奥様の活躍を報じる記事

な住宅街に遍く注ぐなか、明るい談笑の音が響いて、木下さん、それに奥様もワザワザ外に出てまでのご丁寧なお見送りを頂きました。

手土産だけでなく、心の中にもいっぱいのお土産をいただき、帰路を目指して走る車の中では竹下会長と、有益な時間をいただいたことなどを話しながら、ほのぼのとした思いに包まれて帰路に向いました。

(文責：知野見孝信)

(次は松江市竹下孝子さんを訪問します)

社会貢献活動に 取り組む会員探訪

②

雲南市大東町 難波 幸夫さん



満山紅葉 11月12日、雲南市大東町にお住いの難波幸夫さん宅へ竹下会長とお邪魔をした。向かう車の外は雲一つない碧空である。古くは「出雲国風土記」では、「大原郡」として八つの郷と二十四の里があったとされており、平成16年に平成の大合併で、雲南市として市制となった。

玄関を上がらせていただくと直ぐに難波さん専用の書斎があり、六畳ほどの部屋には暖かな冬日が溢れるほどに明るく満ちて、そして壁には社会貢献の功労大臣や知事、市長からの表彰状が並んでいる。早速今日の仕事の要件についてお訊ねした。



書斎には多くの賞状と資料

—放送大学院は何処で知られましたか

難波—公民館の交流センターなんかには放送大学院のチラシが置いてありましてネー。選科生や科目履修生は大学院の試験を受なくても、そこでの取得単位は大学院で認める制度なので、小手試しをしたら全てパスしました。今度は大学院の入学試験対策で英語については客員教授等に相談したりして、高校卒程度の再勉強を独学で行い無事合格いたしました。

—大学修了は何時でしたか

難波—私は東京の通信教育の産能大学（現産業能率大学）です。最初は短期大学の中小企業診断士コースの卒業ですワ。

それで4年生への編入学があり、情報経営学部へ行き2000年10月2日に産能大学を卒業しました。（初めて産能大学の卒業証書とその成績証を拝見する）

—多彩なご趣味をお持ちで、地元紙で俳句が掲載されていましたが

難波—1年位前から俳句も初めましてね、地元紙の文芸欄に11回載りましたデスワ。他に音楽が好きですので、勉強の合間に音楽療法士の資格も取りましたですワ。私は秀才でもないのに努力しかないと思うトりますのでね。

先日島根県知事と戦後75周年沖縄の「島根の塔」追悼式に参列して帰りました。

—修士論文を読みましたが、三重県のNPOの事例報告がありました

難波—結局ねー、NPOも良いことは言うつもりですけど、財政的にきついので行政の後ろ盾がないと維持できない。最近が良いですけど、どのNPO法人も苦勞しとるんですワ。ですから社会政策として訴えて行きたいとネ。折角良い仕事をして、行政との歯車が合いませんと、そして補助金を貰えないと運営できない。それに収益事業で所得が出ると課税対象ですね。

公共的な仕事に対しての課税というのは研究すべきであります。基礎資料として実態を把握したということです。それでネー、他県ではなく雲南市の、26法人をインターネットの内閣府ポータルサイトで全部調べたんですワ。そう言って雲南市の、26法人分の資料を指しながら説明された。

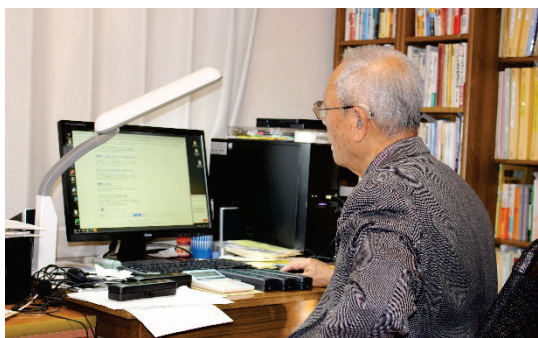
難波—NPO法人は公開が原則であり、非公開は間違っている。経営の神様と云われたドラッカーが言っていました、百年に一度必ず大変革が起こるとネ。そのことも論文の中に

入れました。

難波—それから地域での、各種団体における関わりについてお尋ねですが、これは大東町と雲南市の遺族会長・厚生労働大臣委嘱による戦没者遺族相談員・大東明寿会長・雲南市老人クラブ連合会大東支部会長・大東町明寿会歌謡教室代表等やっています。

演歌歌手では丘みどりがいいですね。

(・・そう言ってパソコンのYouTubeから丘みどりの最新曲「紙の鶴」のカラオケをダウンロードしながら、唄い始められた。・・)



YouTubeでカラオケを熱唱

チョット落ち込んだりね、気分がブルーの時には唄ったり、ハーモニカを吹いたりして気分転換をヤッチョーますワ。歌謡教室は私が代表になっているので一緒に歌っています。J・M・A日本音楽審査委員協会という組織の歌謡教授にもなっています。

(・・送られてきたという歌謡教授の免許を拝見しながら、沢山の資料や書籍、それにパソコンが置かれた書斎の角



マイクでハーモニカ

に、音響装置のアンプを目にしたので「これは何に使われるものですか」と尋ねてみたら、「これはハーモニカをやるときに使っていて、これを使うとエコーが掛かりましてネ、全然違うほど良い響きですヨ」そう言って今度は、ハーモニカを出されて吹かれ始めたのが「かえり船」だった。)

遺族会女性部の60名と研修旅行し懇親会で歌を唄ったらアンコールされましてね。そ

の女性のアンコール曲は帰りの船でした。その女性は満州から引き揚げ船で帰る時に聴いたこの曲を聴くと涙が出ると、思い出の曲のようでした。そこで二人で仲良く歌いましたですワ・・。(・・ハーモニカは来年早々検定試験があり、毎日1時間はハーモニカの練習は欠かさずにやられているとの話でした。)



書斎には陽光が差し込み明るい書斎

—放送大学で学ばれた教育が、地域貢献活動に反映されたと感じられた点は何ですか
難波—行政の立場と民間の立場、社会経済学、公共哲学、コーポレートガバナンス、社会経済組織論、福祉政策、NPO的立場等々を土台とし、総合的に見識を持って判断できると思っています。それは文章、発言、行動等における土台となるように思います。学んだ知識が地域社会の現場の声となり、社会貢献できるとしています。



数々の認定書

—社会活動を通じて感じられることは何ですか。更に訴えたいことは
難波—過疎化、高齢化、少子化社会において地域を良くしようという運動が足りないと思ひ

ます。自分の家庭が中心であり、地域のため、社会のための組織に参加する方は少ないと思います。

また活動を起こせば必ず波風が起きます。また極端なことをいえば人間関係も大変です。大きく言えば地域を良くするための変革です。煩わしい人間関係まで犠牲にして、地域社会を良くしようという人は少ないと思います。この点行政も民間も人任せ。三無主義があるのではないのでしょうか。所属する組織に信用されることが大切だと思います。学歴はその一過程であり、学歴より実行力、特に地域に改革をおこす行動力が必要だと思います。

一難波さんの考えられている社会貢献活動の意義とは何ですか

難波一戦没者遺族会においては、赤紙一枚で「国家を守ること」で召集され家庭を、青春を犠牲にされ、ペンを銃に替えての学徒出陣等若くして戦死された方々の戦没者の英霊を顕彰することと、戦争が起こらないよう平和運動が必要と思います。高齢者対策としては人生百年時代を目標に、老後の生活保障と自分たちも努力し地域の貢献活動をする 것도大切です。国際化社会です。戦争でご迷惑をかけた各国と民間交流をする。中国、朝鮮、フィリッピン等南洋諸島との交流、スポーツ、文化面他貢献することが大切だと思います。

一会報“たたら”を通じて卒業生に対して、メッセージをください

難波一現在おかれた立場で、地域でやれることから頑張っ欲しいと思います。地域を良くする活動や、行政の支援など考え組織を再点検することも大切であると思います。勉強も自分一人のものにしないで、地域のために貢献することが大切だと思います。

一現在の同窓会活動について忌憚のないご意見を下さい

難波一現在地道な活動を実践され尊敬しています。もう少し派手なパフォーマンスもする

ことも必要ではないでしょうか。島根放送大学祭り、各種の発表会、音楽を通じての鑑賞、発表会、又私は島根ハーモニカサークルにも所属しています全国ハーモニカ大会等々の開催を放送大学祭でも開催されたいかがでしょうか。



訪問する高校生たち

長居をしたお礼を述べ外に出たら既に難波さんから聴いていた高校生たち 5~6 名

が玄関先で順番待ちをしていた。

戦後史を伝え終えた後に読まれた一句

戦後史を 高校生と 語る秋

(12 月 7 日山陰中央新報/山陰文芸欄に掲載・既に 11 回入選)

2019 年 7 月発行の“たたら”誌第 13 号の「同窓会に期待する」と題して難波さんは冒頭に、次のようなことを書いておられた。「学んだことを地域社会に還元することが大切だと思います。」

戦争によって、3 歳の時に父親を亡くされたと語られる難波さんは、二度と再び悲惨な戦争の災禍が無いことを願って、「語り伝えたい・戦後 75 年史」を今年出版された。また今年 11 月 5 日、6 日には、丸山県知事とご一緒に、「激戦地沖縄」で戦死された島根県人 909 名、雲南市では 41 名の方の戦没者追悼式典に、雲南市遺族会女性部の折った千羽鶴を奉納され鎮魂と平和の祈りを捧げたと語られた。

<http://yukiomusic.blog.fc2.com/> 若しくは「なんば yukio のブログ」で検索されれば、難波さんのプロフィールとともに、その様子が詳しく載っていますので、同窓会員の皆さんも是非ご覧になってください。

(次回は松江市北垣幸久さんを訪問します)

地区会員の近況報告 (東部地域 2)

卒業後の私

松江市 田中洋子

放送大学卒業後の活動の一つとして寺との関わりがある。5年前より門信徒として寺報の編集委員を仰せつかっている。そのご縁で昨年研修会のお誘いがあったが、家庭の事情で参加できなかった。1年経て新型コロナウイルス感染による外出自粛期間中、議論題目の一つである“私にとって幸せとは”について考えてみた。

中学時代、5つの村から生徒が集まり、今まで仲良く遊んでいた友がクラスにひとりもいなくて孤独だった。休み時間は誰とも話さず本ばかり読んでいた。1年次は新たな友はできなかった。でも寂しいとか、つらいとか、苦痛など感じたことはなかった。自由に使える時間を楽しんでいた。

2年・3年と進級するにつれ、周りから頼まれ事が出てきた。自然と動かざるを得なくなった。責任を持ってそれをやり遂げると友が集まってきた。一人で考え、決断し、行動することに変わりなく、独断的な行動と自分では思わざるを得ない状況だったのに、周りはその私を受け入れ支援してくれた。

ふり返れば、人と交わることが苦手だった私だけど、なぜか頑なに閉ざしてはいなかった。ほんの少し心の窓を開けていたようだ。そこから一人またひとりと友が入って来た。

中学時代は孤独との闘いだと勝手に思っていたがそうでもなかった。周りの友の思いやりや気遣いで過ごせていたのだ。当時の私は幸せだった？自分自身が不幸せだと思わなければ幸せかもしれない。それは今に繋がっている。

“私は何故不幸せと思った事がないのだろう”から始まり、熟考した割には簡単明瞭な結

論になったが、私の幸せの原点を見つけることができた。これからも身近な事柄についてあれこれ考える私は続くだろう。

前号で田中さんの原稿に編集時で校正誤りがあり、意を尽くせない文脈となりましたので、訂正の上再度掲載させていただきます。田中さんには不快な思いをさせました。

改めてお詫び申し上げます。

卒業後の私

全科履修生 竹内 徹



選科履修生で過ごし市民的学習を企図する学生グループに賛同して、面識無く接する方への声掛けや勝手しつつの提案にも

躊躇無くお力添え頂く場に巡り会えて喜び多い思いの中、学習センター教務員の背中を押す言葉を信じて社会と産業コースに再入学したことから卒業を目指しました。

「塵も積もれば山となる」のことわざを励みに工夫を迫られる中、面接授業で休憩を惜しまず隣席学生とテキストに沿って練習したことや、課題へ向けた折角のお声掛けに互いの知識を寄せ合えたことは印象深く良い思い出です。

心理と教育コースへ進んだものの試験対策に自信の無いことから、メディアや自治広報で潮流を探るや専門的な学習相談に客員教員と接して、的を射た解説を頂き学生の恩恵に授かりました。

心理学修の証しかと思しきに、見た目には健常ながら発達課題に不安を継続した生い立ちなのかTPO行動が取れず時折げげんな人を側に見た時、気の毒で終わらずそれまでの環境差にも関係する正常な思春期学習の反発

か、或いは本来の発達不全に伴う障がいかと直面しておもんばかることも有りました。

生活と福祉コースの今も先述の学生グループで岐路を乗り越えようと良い反響を得ている活動は継続しつつ科学的多様性を探るや、コロナ禍にも絡み多数参集から少数方策へも通ずる集いのアイデア集約にも賛同して、学生の本分も力を抜かない考えです。



(拙い一句)

読み聞かす 瞳眩しく 茄子の花

卒業後の私

松江市 森脇エイ子



放送大学で社会福祉に関することを学び、退職後厚生労働大臣から民生児童委員の委嘱を受け、行政や福祉に関する活動に資することができました。18年間地域福祉に関わり退任しました。ホットしましたが貴重な経験でした。

今も引き続き法務省が行う更生保護ボランティアで、松江地区更生保護女性会の一員として参加しています。青少年の健全育成や子育て支援、社会を明るくする運動や保護観察者などに対する活動です。

地元の小学校、幼稚園との交流や、愛の募金運動や矯正施設へ愛の図書を贈呈したり、矯正施設への訪問や刑務所の矯正展への協力(バザー)などを行っています。

本年はコロナ禍のため、訪問活動が出来ず残念でした。早く収束し平穏な生活が戻ってくることを願っています。

私は放送大学の俳句サークルで長年俳句を嗜み、楽しんでます。趣味としての裏千家の茶道を遊びながらこれまた楽しいものです。

当同窓会発足時より、役員(理事、会計)として、竹下会長の下、役員の皆さまと一緒にこの会の発展のため、微力ですが頑張っています。以下の写真は、母衣幼稚園との交流における絵本の読み聞かせの様です

卒業後の私

松江市 武田力也



放送大学を卒業して十数年が経ちました。今思い出しますと、在学中に教材として「仏教の思想」を学んだときに、今までは仏教と言えば葬儀や法事、というイメージしかありませんでした。

しかし、この教材を学ぶことにより、本来は生活に生きる宗教であるように感じました。先人達が、嵐やしげに会いながら命がけで大陸に渡り教えを請い学び貴重な経典を書き写して持ち帰った。天台宗の最澄、真言宗の空海、それに続く法然や新鸞、日蓮、道元といった日本における宗祖が比叡山で学んだことも知りました。

あるときテレビ番組で福井県永平寺の修行僧、雲水取材していました。朝は三時に振鈴と呼ばれる起床の鈴が鳴り、桶半分の水で洗顔と歯磨きを済ませ、そして坐禅が始まる。お経を誦げたり坐禅を組むことだけが修行ではなく、日常生活すべてが修行であり、典座(てんぞ)と呼ばれる役職は、修行僧が食事の心配せずに修行に打ち込めるように、修行僧の食事、仏や祖師へ供膳を司る、これも大切な修行とされる。年末になると、袈裟に草履の姿で市

街地へ托鉢に出かける。前後裁断で今にすべてを集中する姿に感動を覚えました。

最近では、京都に出かけた時、比叡山延暦寺、三十三間堂、禅林寺見返り阿弥陀仏、妙心寺など見学しました。どれも素晴らしく圧巻です。今後、宗教や哲学等の講座があれば、また受講したいと思います。

他団体との共催活動

「明日への消費者活動支援事業」
「SDGs をテーマとして講演とパネル・ディスカッション」



遠藤弁護士の講演

島根同窓会は他団体との共催事業活動に取り組んでいるが、今年度はACAセミナー自主学習会との4回目の事業となった。

11月9日(月)14:30から、出雲市役所3階庁議室にて、聴講者60人が参加。放送大学からは同窓会員と在学生が12人参加した。

本テーマのSDGsとは持続可能な開発目標で、2015年に国連で採択され、2016年5月に全閣僚を構成員とする「SDGs推進本部」を設置し、下部組織として行政、民間セクター、NGO、NPO、有識者、国際機関、各種団体を含む幅広いステークホルダー(利害関係者)によって構成される「SDGs推進円卓会議」における対話を経て、同年12月の「SDGs実施指針」を決定したことを受け、取り組まれている。

最近やたらとメディアや行政の首長が襟もとに色鮮やかな円環状のバッチ付けている姿を見かけるが、理解できずにいたことが今回の講演で認識できた。

目標は貧困や飢餓の撲滅、ジェンダー平等、

人や国の不平等の是正、地球環境の保全など17項目にわたって2030年度までに達成するとの呼びかけである。

ところでこのSDGsと私たちが取り組む課題について、遠藤郁哉弁護士は私たちの日々の行動にこそ、目標達成のカギが隠されており、ポイントは目標17の「つくる責任・つかう責任」があり、エコ消費に取り組もうと呼びかけた。



続いてのパネル・ディスカッションは、パネラーとして出雲市で消費活動に取り組んでいる団体から活動が報告され、放送大学島根学習センター小仲事務長が放送大学の特徴と、県庁在職中に取組んだ“しまねの子育て協同プロジェクト”について、幅広い地域住民等の参画により、学校・家庭・地域が、連携・協同しながら、地域総がかりで子どもの成長を支え、地域を創生する活動を紹介した。



パネラーの小仲事務長(左)

(文責・竹下靖彦)



私の書架散策

No. 9

米子市 木下知義

書籍名 『新・学問のススメ』

—生涯学習のこれから—

著者名 石 弘光

出版社 講談社現代新書

書名の謂れは、2011 年 1 月に当時の鈴木寛文部科学副大臣（かつて「生涯学習振興法」づくりにも関わり政策立案する立場のエキスパート）と石弘光放送大学第六代学長の対談が行われ、生涯学習社会のあ

り方や放送大学の役割等について、闊達に熱き想いが語られた。

対談の最後に放送大学に期待すること、学生へのメッセージの求めに応じて「新・学問のススメ」と呼んで、生涯学習を推進していることが話されたが、本書の内容にピッタリと考え書名として使用させともらったと紹介されている。

本書の構成は、(1)生涯学習とは何か、その全体像を 4 年間の学長体験を活かし体系的に整理、(2)放送大学の沿革、過去・現在・未来がこの一冊で丸ごとわかる、(3)世界の生涯学習の現状、(4)地域コミュニティにとって生涯学習が重要であること、放送大学の地域学習センターの大切さを評価、(5)4 年間で試みた改革の数々、その中でいくつかの挫折体験が紹介されている。

初仕事として、①放送大学の英文名を現在のものに統一、②アクションプランの策定(この中の一つに全国的な同窓会組織の確立があ

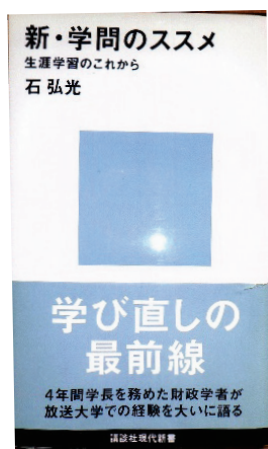
る)、③学長裁量経費の創設(身近なところでは島根同窓会の活動支援金 5 万円の助成、学長経費を活用したイメージキャラクター“まなびー”の登場、大学グッズの製作、イメージソング 2 曲を小椋佳さんに作詞・作曲依頼)

最終章の「改革と挫折—学長の挑戦—」では、石学長の面目躍如たるものがある。内容は本書を読んでものお楽しみであるが、中でも注目したのは①同窓会との関係強化(同窓会役員との連携、学位記授与式式辞で同窓会入会の勧めと同窓会連合会会長が祝辞を述べる機会の実現など)、②大学管理上の仕組みとして職員制度のあり方、③大学管理組織のあり方—二頭立ての弊害を学長と理事長兼務による経営・教学の一体化を提起したが通らなかった。結果この間の責任を取って潔く次期学長を辞退された。

これまでの石学長については、かつて政府税制調査会会長時代、いわゆるサラリーマン増税案をまとめるなど、あちら側の学者とのイメージが強く私の印象は良くなかった。しかし、この本を読み認識ががらりと変わった。特に感心したのは、聴く耳を持ち、動く前に 3 人の副学長などに相談して了解を得た上で結論を出し、その上で果敢に行動されていたことである。図抜けた見識と実行力はまさに巨人と言うにふさわしい。Wikipedia によれば放送大学名誉学長とある。

実は、石学長は 2009 年前立腺がんを告知され、開腹による全摘手術を選択、がんを完全に切り切った。この時 72 歳であった。

ところが 2016 年今度は膵臓がんが見つかったが、「もう十分やって来た、がんなら受け入れよう」とご夫婦であまり悲壮感を持たず、罹患体験を本にまとめ、新聞にコラムを連載、囲碁や旅行などの趣味を愉しみ、2018 年 8 月 81 歳で亡くなった。身じまいも生前にしっかりされていたそうである。見事な人生であったと言うほかはない。



会員自由投稿欄

「たたら16号自由席」

匿名希望

今回「たたら16号自由席」という自由席券を手にした。

此処は「編集後記席」でもないし「プライベートな記事席」でもない。「〇〇行事・〇〇イベントの報告席」でもない。リベラルフリー、気ままな乗車席である。

「ヒャーすごい!」「ウワー豪華!」。ビックリマークを連発して、絶叫のようにたまげた格好で、おどけて見せるタレントが「ファーストクラス潜入」というTV番組に出ていた。

ファーストクラスというのは、その切符を手にした時から特別待遇が始まるみたいだ。空港の奥まった処に特別のルームが在って、食べ物や飲み物が好きなだけ全部タダ、無料とのこと。(それだけではないみたいだが・・・)

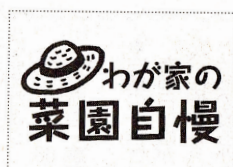
因みにJALで羽田から花の都パリへのファーストクラスでの往復料金は250万円。これがビジネスクラスだと120万円。そしてもし仮に私がパリへ行くとすれば、利用するエコノミークラスでは40万円とある。

(ネットで調べた)。

「芸人のXさんもネー・タレントのYさんもネー毎回ファーストクラスを利用されているみたいですよ〜」

件(くだん)のタレントさんが口にする何人かの芸人、タレントの名を聞いて「ヤッパ世の中そんな人たちが居るのですナ・何とスゴイことですナア」と番茶をすすりながら思ったことである。

新連載企画 No.1



松江市
竹下靖彦

家庭菜園に挑戦は既に30年になりますが、マルチは農業廃プラを出さないため、全く使用せずにすべて露地栽培にて春・夏野菜・秋・冬野菜に取り組んでいる。



耕作面積は2カ所で231㎡(自宅横50㎡借地181㎡)で日当たりはどちらも良かったのですが、借地の西側に本年二階建ての住宅が建ち、昼過ぎからは日陰となり生育に差が出てきた。

種類は根菜類として大根(耐病総太り、聖護院、おでん、青首丸尻)、ニンニク、秋ジャガ芋、カブ(あづま金町)、玉葱(ソニック、貯蔵吊り、もみじ)、葉物類はハクサイ(黄ごころ65、90)、キャベツ(おきな、彩音)小松菜、レタス、ホウレンソウ、ラデッシュ(赤丸はつか)、ブロッコリー、サヤエンドウ豆(大さや・赤花絹さや)と早生や晩生と、収穫時期に合わせて豊富です。葉物野菜と玉葱苗は全て播種して育成させて定植しているが、自家用では消費できないので友人、近所の知り合いに配っている。既にラデッシュは12月で全て取りつくしている。

ところが近年の気候変動のため、例年通りの耕作知識では通用しない事態が発生し、知り合いの農家の方に相談すると自身も苦悩していることと、やはり対策に苦悩されています。

今年から夏野菜はYouTubeに投稿されている農家の手法に学び、トマト、ミニトマト、キュウリ、なす、ピーマンは過去にない大収穫となった。

昔から“晴耕雨読”とはよく言ったもので、晴の日は行事が無ければ原則畑作業に精を出し、雨の日は読書とPCに向かってキーボードを叩いている。

齢を重ね小さな身体は满身創痕となり健康を維持するため、好きな事に取り組んでいる。

～学習センターからのお知らせ～ だんだんセミナー

「シルクロードの歴史と文化」講師：荒川 正晴 客員教員

1月22日(金) 14:30～16:00 会場：島根学習センター
 2月19日(金) 14:30～16:00 会場：島根学習センター
 3月25日(木) 14:30～16:00 会場：島根学習センター

「心理学から見える日常生活の面白さ、私たちの面白さ」講師：石井 徹 客員教員

1月27日(水) 13:30～15:00 会場：島根学習センター
 2月24日(水) 13:30～15:00 会場：島根学習センター
 3月24日(水) 13:30～15:00 会場：島根学習センター

「生物たちの生きる仕組み」講師：尾崎 浩一 客員教員

1月26日(火) 14:30～16:00 会場：島根学習センター
 2月17日(水) 14:30～16:00 会場：島根学習センター
 3月23日(火) 14:30～16:00 会場：島根学習センター

「岩石と鉱物の世界」講師：高須 晃 客員教員

1月28日(木) 14:00～15:30 会場：島根学習センター
 2月16日(火) 14:00～15:30 会場：島根学習センター
 3月16日(火) 14:00～15:30 会場：島根学習センター

「健康づくりに生かす運動生理学」講師：原 丈貴 客員教員

1月22日(金) 10:00～11:30 会場：島根県立図書館集会室(18名)で開催
 2月12日(金) 14:30～16:00 会場：島根学習センター
 3月11日(木) 14:30～16:00 会場：島根学習センター

「音楽は世につれ、世は音楽につれー音楽でひもとく時代と社会ー」講師：藤井浩基 客員教員

1月12日(火) 10:00～11:30 会場：島根学習センター
 2月 9日(火) 10:00～11:30 会場：島根学習センター
 3月 9日(火) 10:00～11:30 会場：島根学習センター

「英語小説を愉しむ」講師：宮澤 文雄 客員教員

2月20日(土) 14:00～15:30 会場：島根学習センター
 3月13日(土) 14:00～16:00 会場：島根学習センター

「英文法の基礎講座 英語塾」講師：宮澤 文雄 客員教員

1月28日(木) 11:00～12:30 会場：島根学習センター
 2月18日(木) 11:00～12:30 会場：島根学習センター
 3月18日(木) 11:00～12:30 会場：島根学習センター/最終回

「お天気よもやま話」講師：田坂 郁夫 島根学習センター所長

1月 8日(金) 14:00～15:30 会場：島根学習センター
 2月 5日(金) 14:00～15:30 会場：島根学習センター
 3月 5日(金) 14:00～15:30 会場：島根学習センター

～同窓会からのお知らせ

新会員のご紹介

(2020年7月～2020年12月)

・2019年度第2学期卒業

・2020年度第1学期卒業

入会はいずれの学期からはありませんでした。

◆同窓会の活動日誌◆

(2020年7月～12月)

【7月度】

- 2日(木) “たたら” 1次校正
- 6日(月) “たたら” 2次校正
- 9日(木) “たたら” 3次校正
- 10日(金) “たたら” 印刷所へ
- 17日(金) “たたら” 会員発送
- 25日(土) “たたら” 校正ミス発覚
- 30日(木) 英語塾開講②

【8月度】

- 26日(水) 学位記授与式打合せ
- 27日(木) 英語塾開講①

【9月度】

- 7日(月) 第25回広報部会(リモート)
- 12日(土) 第8期第1回役員会
(リモートにて開催)
- 27日(日) 1学期学位記授与式
- 27日(日) 卒業を祝う会開催

【10月度】

- 9日(金) 共催事業参加案内発送

10日(土) “たたら” 原稿依頼発送

15日(木) 広報部取材準備打合せ

28日(水) 同窓会用資料倉庫整理

【11月度】

- 6日(金) 名誉学生訪問取材
- 9日(月) 他団体との共催事業
- 12日(木) 社会貢献活動訪問取材
- 21日(土) 連合会へ助成金申請提出
- 26日(木) 英語塾開講③

【12月度】

- 11日(金) センター所長と協議
- 18日(金) 第2回役員会開催
- 24日(木) 英語塾開講④
- 25日(金) 会報“たたら”校正

会員継続手続きのお願い

2020年6月に継続会員登録のお願いをしましたところ、一部の方から未だご返事の手続きを頂いておりません。お手数ですが「継続」か「退会」のご意向をお願いします。新年度における予算計上に際し会費収入の確定が出来ません。何卒よろしくお願い致します。

会報“たたら”へ投稿のお願い

広報部では会報“たたら”へ投稿をお願いします。何卒よろしくお願い致します。

地域活動をされている方をご紹介下さい

会員で地域活動に取り組んでおられる方をご紹介下さい。広報部より取材に伺います。

訃報

宮崎 幸子 さん(出雲市)

- ・2020年6月26日 (享年68歳)
- ・入会 2017年1月29日

謹んでご冥福をお祈り致します

同窓会 当面の行事案内

2020年度第2学期学位記授与式開催のご案内

日時 2021年3月28(日)11:00~12:00 (共催:島根同窓会)
会場 島根学習センター 3階「第1講義室」
対象者 2020年度第2学期卒業要件を満たした学生・修士修了者の皆さん
※ 後輩たちの卒業を祝福するため、会員多数のご参加をお願いします。

2020年度第2学期卒業を祝う会開催のご案内

日時 2021年3月28日(日)12:00~13:00 (共催:島根学習センター)
会場 学習センター 4階「第2講義室」(予定)
対象者 2020年度第2学期卒業要件を満たした学生・修士修了者の皆さん
※ 後輩たちの卒業を祝福するため、会員多数のご参加をお願いします。

島根同窓会 第9回通常総会開催のご案内

日時 2021年4月17日(土)13:30~15:00 (共催:島根学習センター)
会場 島根学習センター 3階「第1講義室」(予定)
議題 ①2020年度事業報告、②2020年度会計報告、③2021年度事業計画案、
④2021年度予算案、⑤第5期役員改選案(自薦・他薦を受付けます)
総会の開催案内は改めてお知らせします。
※当日に市民公開講座開催はコロナ禍のため中止します

～編集後記～

明けましておめでとうございます。

昨年を振り返ると、このコロナ禍のなかで種々の同窓会行事の大半が中止になりました。新年になり、新たな展望が開けてくるのではないかと期待したいところですが、島根県の感染状況を見ると、今年前半はこのまま微増で推移するのではないかと危惧しています。

放送大学では、放送授業、オンライン授業、面接授業が三本柱ですが、このうち、面接授業は講師の先生と直に触れ合うという面で評価は高いのですが、定員を半減などして苦勞しておられます。次善の策としてZoom(ウェブ・オンライン会議システム)が目立っています。最初は慣れないこともありますが、やってみることが大切だと思います。(mo)